

讀 者 欄 寄 書 歡 迎

『妙見』は北斗七星

天界十月號に山口の村田英藏氏より「妙見」につきお尋ねありましたので下に一言申上候

妙見大士、妙見菩薩等と稱するは北斗七星の異名なり。主として國土を擁護せらるゝ神として尊信せらる。日本にては三井に尊星王と號し、東寺に妙見大士の名を用ふ。蓋し諸國土を擁護し其の所作甚だ奇特なるを以つて妙見と稱し、星宿中の王者なるを以つて尊星王と唱へたるも、古き天文家には文昌星と呼ばれたり。化身は普通童形なるを常とす。

星を祭り天文を研究したるは密教に對し支那へ歳差を將來し編曆上大效を顯はせし密教の僧一行禪士なり。又眞言宗の秘密の一たる宿曜經は二十八宿に吉凶禍福を織り入れたる御經なり。

今眞言密教中に採用せられたる星辰に關する經書名を大正新修大藏經第二十一卷(密教部第四)より抜載せんに概ね次の如し

一、七星如意輪秘密要經	一卷	唐 不 空 譯
二、舍頭諫大子二十八宿經	一卷	西 晋 竺 法 護 譯
三、諸星母陀羅尼經	一卷	唐 法 成 譯
四、宿曜儀軌	一卷	唐 一 行 撰
五、北斗七星念誦儀軌	一卷	唐 金 剛 智 譯
六、七斗七星護摩秘密儀軌	一卷	—
七、佛說北斗七星延命經	一卷	—
八、七曜攘災決	一卷	唐 金 俱 吒 撰
九、七曜星辰別行法	一卷	唐 一 行 撰
十、北斗七星護摩法	一卷	唐 一 行 撰
十一、梵天火羅九曜	一卷	—
十二、文殊菩薩吉凶日善惡宿曜經	二卷	唐 不 空 譯

以 上

十 月 十 日

山 本 先 生

東 京 西 岡 永 太 郎

## 北斗七星の和名

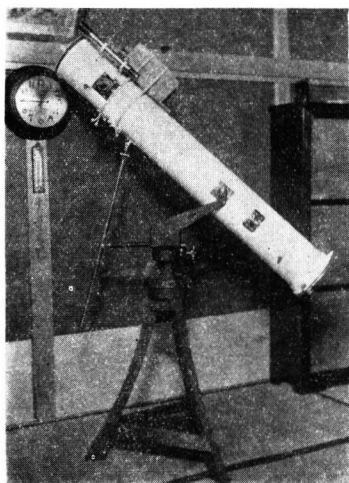
「北斗」なる漢名は曆道や天文学の傳來と共に推古朝の頃から知られて居たことは言ふまでもない。そして始めは専ら博士、學僧たちの間の術語であつたらうが、平安朝に入つて民間でも之を口にするやうになつたらしい。併し歌人たちは北斗の名を用らないで、「北の星」「七つの星」「七ます星」と詠んでゐた。

後代には「四三の星」の和名が廣く行はれ、一方日蓮宗の信仰が「北辰」の名と共に「北斗」を弘めた。今静岡縣に用ひられ居るホクトサマ・ホクノサマの名は此の間の消息を語るものであらう。

「七曜のほし」の起原は勿論支那の天文説の七曜にあり、それが何時の頃からか北斗に轉じたものである。静岡地方ではヒチヨノボシ・ヒチヨノボシ等と呼び、福岡縣若松市ではヒチヨノボシと呼ぶ。

「四三の星」はシソフホシと讀む。シサウは雙六の用語で、賽を二つ振つて四と三との出ることを云ふ。若し此の説によるならば、此の語の起原は江戸以前である。

「なつほし」の名は現今可なり廣く分布して居るが、文獻としては平安時代の和歌に「七つの星」とあるのが始めである。



其の他、地方によりナナヨノボシ・シチジョウサマ・ヒシヤクボシ・カギボシ・カジボシ・ヨコセキ・クマボシ・カラスキボシ・フナボシ・インコドン等の名がある。(野尻抱影氏の文より)

前略 豫てより改造中の15種望遠鏡此程竣工し爾今觀測開始仕り候  
同封の寫眞御笑覽にまで(左圖)

掩蔽課部員

大阪 西川 英 男

### 支那の天文に関する御願ひ

支那の天文は、バビロン其他の地方よりよほど古いのではないかと（私は臺灣や支那に永らく居りました關係上）考へております。勿論學者のお方が専門に御研究になつて支那よりも西洋の方が先きであると申されればそれまでのことで私達素人にはわかりようもありません。しかし學者方の間にも種々と御説もあるようでありますし、支那の方が古いといへないこともないと存じます。私は歴史についても委しいことを存じませんから何れとも申しようも御座いませんが、どうしても支那が古いといふ考へが頭からのきませんので、この際支那の古代天文學に就ても勉強して見たいと存じて居ります。幸に私の父の親友で私の幼少の時から昵懇にいたして居ります謝介石氏が滿州國の外交總長に就任いたして居り、先日も建國の挨拶やら寫眞を贈つて呉れまして、其の後音信もいたして居りますから、此際天文に關する古書を集めておきたいと存じます。謝介石氏は必ず盡力をして呉れることと存じます。案外、珍書も發見出来るかも知れないと存じますが、現在どの様な古書によつて研究せられて居るのでありませうか。書名を御教へ願へませんでせうか。又、書名は判つて居てもその書が日本にないといつたようなものがありましたら、御教示をお願いいたし度存じます。出来るだけ努力して支那の古天文書を集めたいと存じます。幸にも集めることが出来ましたら、お手元へ御送り申上げます。私は南支に居ります時、支那の軍隊や學生會に密接な關係がありまして、どんな方法でも講じることが出来ましたのに、それに古本屋あせりは道樂にいたして居りましたのに、天文の古書に氣付かなかつたことは、かへすがへすも残念に存じます。ですが、奉天方面は古都でもありますので、都合もよく、謝氏は天津に永らく居住いたして居りましたからこの方面にも好都合とおもひます。

山本先生

南米支部 神屋信一